idea

ニュースレター「イデア」

2023. 4

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

1｜二言三言｜　一関修紅高等学校男子バレーボール部高橋昇禎監督・石川愛礼選手(前編)
3｜団体紹介｜　室根バレーボール協会
5｜地域紹介｜　曲田自治会(藤沢)
7｜企業紹介｜　株式会社一関環境保全センター(一関)
8｜博識杜のフクロウ博士｜　地域運営の落とし穴㉝　農村RMOと地域協働体
9｜センターの自由研究｜　くらし調査ファイル№21「年(歳)神様の迎え方②」

今月の表紙
「農婦症(農作業が原因の肩こり・腰痛)」解消のため、昭和40年代に大東町興田で始まった「家庭バレーボール」。その後、「大東町ママさん・パパさんバレーボール大会」の開催で町内にバレーが普及し、旧大東町は「ふるさと創生事業」で「バレーボール日本一」のまちづくりを宣言。「大東バレーボール記念館」が平成7年に完成しました。令和時代、バレーが地域づくりのキーワードに再び返り咲く……かも!?(二言三言、団体紹介)

idea ニュースレター「イデア」
発行　いちのせき市民活動センター　せんまやサテライト

〒021-0881　一関市大町4-29 なのはなプラザ4F　Tel 0191-26-6400　Fax 0191-26-6415
〒029-0803　一関市千厩町千厩字町149　Tel 0191-48-3735　Fax 0191-48-3736
ホームページ:https://www/center-i.org/　メール:center-i@tempo.ocn.ne.jp

おしらせ

情報　一関修紅高等学校「男子バレーボール部」公式情報発信中

本誌「二言三言」でご紹介した一関修紅高等学校の男子バレーボール部では、公式ホームページのほか、Twitter、Instagramでも情報を発信しています。試合スケジュールはもちろん、練習の様子、選手たちの普段の様子もご覧いただけます。また、入部(入学)を検討する生徒向けの部活体験会の日程等も掲載されています。
下記QRコードを読み込むか、URLやアカウント名で検索ください。

HP:https://shuko-volleyball.hacca.jp/
Twitter:@shuko_0527
Instagram:@shuko_volleyball
問合:0191-23-3096
(一関修紅高等学校)

情報　「にしいわいの校歌集」「ひがしいわいの校歌集」販売中

トーバン印刷株式会社では、両磐地域の小・中学校、高等学校の校歌を掲載した校歌集(2種)を販売しています。既に統廃合となった学校の校歌から新校歌(令和3年3月現在)を楽譜付きで掲載しています。詳しくは下記までお問合わせください。

商品名と概要:
①「にしいわいの校歌集(約80曲掲載)」
(小・中学校の空撮カラー写真付)　3,300円(税込)
②「ひがしいわいの校歌集(約70曲掲載)」
(楽譜を基にしたピアノ曲を収録したCD2枚付き)　3,850円(税込)
問合:0191-52-2445
(トーバン印刷株式会社　本社・工場)

募集　一関市国際交流協会会員募集！

一関市国際交流協会では、国際交流に関心のある方、他国の言葉や文化にふれてみたい方など、一緒に活動してくれる会員を募集します。詳しくはQRコードを読み込むか下記までお問合せください。

活動内容:
・国際交流に関する研修、セミナー
・料理や文化を通じた交流イベント
・海外学生の受入(ホームステイ)等
年会費:
〈個人会費〉2,000円／人
〈団体・法人会費〉10,000円
問合:0191-34-4711
(一関市国際交流協会)

募集　教育旅行等の「民泊」受入れ家庭募集！

地域資源を活かした、教育旅行及び着地型観光による交流人口の拡大等に取り組む「いちのせきニューツーリズム協議会」では、修学旅行や体験学習などで他県から訪れる子どもたち(中学生・高校生)の民泊受入れに協力してくれる家庭(体験要素があれば農家でなくても可)を募集しています。詳しくは下記まで。

受入人数:3名程度/1泊が基本
体験:各家庭で、農作業や家の作業等を手伝って過ごします。
謝礼:宿泊体験にかかる体験料(食事費用含む)を支払います。
問合:0191-82-3111
(いちのせきニューツーリズム協議会事務局　一関市役所花泉支所内)

情報　「花の駅せんまや軽トラ市」再開予定のお知らせ

冬期休業していた「花の駅せんまや軽トラ市(主催:清田親交会・小梨自治振興協議会)」は令和5年度の開催を4月から再開予定(毎月第3日曜日)です。
荷台いっぱいに地元で採れた野菜や特産品などを積んだ軽トラが並びます。出店者も随時募集中。詳しくは下記まで。

日時:4月～12月の第3日曜日　9時～12時　※4月は4月16日
場所:「花の駅せんまや」駐車場内(一関市千厩町清田字境)
料金:入場無料
問合:090-3758-0469
(清田親交会事務局・千葉)

情報　「じもっと基金」寄付受付について

‘地域のために何かやりたい人’と‘それを応援したい人’を結び付け、「寄付により市民活動に参加する」という意識醸成も目指し、「一関じもっと基金」を創設しました。
第1回目のエントリー募集(令和5年2月1日～3月4日)では、7団体から応募を受け付けました。審査会を経て、令和5年4月から寄付の受付を開始する予定です。基金の詳細は右のQRコードを読み込むか下記までお問合せください。

公式HP:https://ijimotto.jp
問合:0191-26-6400
(一関じもっと基金事務局　いちのせき市民活動センター)

まちの写真展

スタッフがまちの１コマを切り取ります。

作品名「定位置で、目指せ冬の風物詩」

室根バイパスと本吉室根線・旧室根西小学校前とをつなぐ道に佇むこの看板。どこからか譲られたものらしく、譲られた時にはこの状態だったとか(＝市の職員がユーモラスに修正したわけではない)。ここ数年はこの位置に設置されており、密かな冬の楽しみです。

旧町村別の人口動態等を共有します。

2023年３月１日付
(2023年２月28日現在住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体		前月比
人口	109351	-141
世帯数	46329	-11
出生数	34	-9

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	54559	-38	24486	-13
花泉	12104	-26	4706	1
川崎	3256	-10	1279	1
千厩	9915	-9	4109	0
大東	12018	-27	4910	0
東山	5919	-7	2276	1
室根	4419	1	1784	11
藤沢	7161	-25	2779	-12

169・170／109,351

高橋昇禎・石川愛礼

左：石川愛礼（あれい）選手　右：高橋昇禎（のりよし）監督

【高橋昇禎監督】不来方高校、亜細亜大学で活躍後、東レアローズに入団。平成13年に現役を引退すると指導者に転身、亜細亜大学の監督を経て、平成19年より一関修紅高等学校男子バレーボール部の監督へ。

【石川愛礼選手（取材当時３年生）】奥州市江刺愛宕出身、金ヶ崎中学校卒業。令和元年度全日本中学生バレーボール選抜（男女各12人）にもセッターで選ばれた。身長178cm。

第105回　一関修紅高等学校　男子バレーボール部　高橋昇禎監督　令和４年度キャプテン（セッター）　石川愛礼 選手　×　いちのせき市民活動センター　センター長 小野寺浩樹

「日本一」を目指すための環境を整えて
～バレーボールをツールに【前編】～

令和５年１月に開催された「春高」こと「第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会」にて、ベスト８をかけた３回戦まで進出した一関修紅高等学校男子バレーボール部。一関市出身の選手も３名いましたが、多くは県内外からバレーボールをするために、当市での高校生活を選んだ生徒たちです。高校の再編も検討される中、部活動と学校、そして地域スポーツの関係性とは？（２回シリーズの前編）

小野寺　まずは春高、感動しました！実は我々、事務所の壁にプロジェクターで試合の配信を投影し、１回戦からパブリックビューイングしてたんです（笑）

高橋　ありがとうございます。皆さんに感動したって言ってもらえて嬉しいんですが、目標を日本一に設定していたので、選手たちは本当に悔しがっていて、申し訳なさを感じています。

小野寺　見ている側も悔しくて、試合が終わった瞬間に「もう一回見たい」って会話をしました。

高橋　実は日本一を目標にしたのは今年が初めてだったんです。選手たちもなりたいと言うし、私も狙えるメンバーだと思ったので、本気で狙ってたんです。

小野寺　愛礼君も本気で日本一を目指していた？

愛礼　はい、今年はチャンスあるなって思ってたので。令和４年の全国私学大会でそれなりに戦えたので、いけるな、と。

高橋　３回戦目（開智）が鬼門だって分かってたので、あえて１、２回戦目はプレーに制限をかけ、普通にやってません。開智とは過去にも対戦していますが、まだ勝ったことがなくて。それが１セット目をとって、勝ったと思っちゃったんですよ。それが私たちの足りないところだと感じています。選手たちは普段以上のことをやってくれて「大会の中で成長する」ということが本当にあるんだなっていうのは、勉強させられましたね。

小野寺　日本一を目指せる高校が市内にあることを本当に誇りに思うんですが、修紅の男子バレー部って、ずっと強いわけではなかったですよね？

高橋　昔は強かったんですが、一度廃部になりかけてるんです。私は平成19年から監督をしていますが、実は私が改めて立ち上げたんです。

小野寺　廃部同然の部活に東レ出身の高橋監督を就任させるという学校の方針に驚きますが、監督就任の経緯は？

高橋　偶然です。東レを引退し、亜細亜大学の監督をしていましたが、辞めて地元に帰り、たまたま当時の修紅の校長と出会いまして。この校長が私と同じ北上市出身で、かつ女子バレー部の監督もしていた方だったんです。そんなご縁で誘っていただいたんですが、最初は大変でした。部員が６人しかいないうちの２人は未経験で……。練習試合を組んでも当日来なくて、仕方なく私が出たり（笑）

愛礼　初めて聞きました、そんな話（笑）僕たちが小・中学生の時にはもう修紅は県で一位をとってました。

高橋　平成24年には春高の県予選で優勝してますから、県制覇までは時間がかからなかったです。問題はそこから。県優勝は当たり前になっても、その先がなかなか勝てないんです。

小野寺　県優勝はできても、その先で勝てない要因は何ですか。

高橋　本校に限らず、岩手が勝てない理由の一つは、良い選手が外に出てしまうこと。雄物川高校や東北高校、最近は春高で戦った和歌山県の開智に行った選手までいます。多分、愛礼も考えたと思うんです。

愛礼　確かに岩手にこだわるっていうのは正直なくて、強いとこでやりたいと思ってました。

小野寺　県外も視野に入るのに、愛礼君が修紅を選んだ理由は？

愛礼　高橋監督の下でやりたかったのと、修紅のバレー[※2]が自分に合っていると思ったので。あとは自分の同級生の良い選手たちが修紅にたくさん入るっていうのを聞いたのもあります。

小野寺　同級生がどこに入るとか、そういう情報も見るんだ！

高橋　愛礼は中学校の岩手県選抜選手なので、横のつながりがあるし、全日本の選抜にも選ばれているので、他県の選手も知っているんです。なので、普段は選抜の子がどこの高校に何人行くのかがバロメーターのような状態なんですが、この世代の場合、愛礼が岩手選抜の選手を引き連れてきたような感じで。

小野寺　愛礼君とやりたい、と。

高橋　そう。そこにリクルートした他県選抜の選手も加わった。良い選手が外に出てしまう岩手において、逆の、県外から来てもらえるようになった。そして愛礼のような選手も残ってくれた。それがうちの強みです。

小野寺　岩手の男子バレーは不来方高校、盛岡南高校という県立が強かったので、そこに限界があったというか……。

高橋　例えば寮があるのも本校の強みで、やっぱり私立だとそういう体制は整えやすいですよね。働き方改革などの影響もあり、県立は今後ますます厳しくなるんじゃないかと思います。

小野寺　そうすると、岩手の高校男子バレーにおける受け皿は修紅に集中してくるのでは？

高橋　それがねぇ……敬遠されるんですよ。岩手県はまだまだ県立志向が強くて、私立は第二志望っていうイメージが保護者世代にも根強く残ってます。

小野寺　私立高校に対するマインドリセットは、一関学院さんと対談[※3]した時にも話題にあがって、我々も気になっていて。県立に行った方が良いという安易な発想ではなく「子どもたちの教育や成長をどういう環境で目指すか」っていう部分に主眼を置いて欲しいですよね。

高橋　特に多いのが「進学したいから」っていう理由。確かに本校は進学６・就職４の割合ですが、バレー部の３年生（令和４年度）13人中９人が大学進学です。もちろんバレーに関連した進学が多いですが、センター試験を受けて国立に行った卒業生もいます。だから逆に、大学進学を考えているから修紅を選ぶ子がいるのも事実。ちなみに愛礼はVリーガーになることを見据えて日体大[※4]に進学しますし、もう一人のエースも同じくVリーガー目指して順天堂大です。

（後編に続く）

一関修紅高等学校　男子バレー部
https://shuko-volleyball.hacca.jp/

※１　和歌山県和歌山市の「開智（開智中学校・高等学校）」と対戦し、フルセットの末、逆転負けしたが、岩手県勢初のベスト16入りを果たした。

※２　「大エース」に依存する従来の高校バレーのスタイルではなく、「常に４枚打てる数的優位をつくりだすコンビバレー」をテーマに、将来的に大学やＶリーグで活躍していける人材を育むため、個人のプレーの幅を広げる（フィジカル能力を高める）ことにも注力している。
※３　情報誌『idea』2022年12月号（前編）・2023年１月号（後編）　／　※４　日本体育大学

団体紹介

バレーボールがつなぐ「地域」と「人」

室根バレーボール協会

室根バレーボール協会
昭和50年代に発足。旧室根村時代から続く「家庭バレーボール大会」を主管するほか、近年は地元企業と連携した冠大会等も企画。令和４年度は計４つの大会の主管を務めている。

TEL：090-5231-0611（事務局・日下）

写真：同会協力団体「玉椿（男子）」「室根オリーブ（女子）」の練習後集合写真（令和４年２月）

若い世代が、自主的に

まだコロナ禍の明けない令和５年２月12日。一関市室根町にある室根総合体育館に小さな子どもからシニア世代まで、市内各地から２００人を超える人々が集まりました。そのお目当ては「バレーボール」。第６回目となる「いわいどりオヤマ杯一関市ソフトバレーボール大会」が賑やかに開催されたのです。

主催は一関市バレーボール協会ですが、主管としてこの大会を企画・運営するのが「室根バレーボール協会」です。

同会は昭和54年頃の発足。旧室根村におけるバレーボールに関連する事業を企画運営してきました。一関市が合併したことを受け、旧町村に存在していた各協会の上部組織のような形で一関市バレーボール協会が発足したため、現在では「支協会」という位置づけで活動しています。

特筆すべきは同会の役員・会員の多さ。役員が約20人、会員も30人程おり、大会などの事業の際にはさらに40人程が自主的に準備に駆けつけてくれるのだとか。

「他の協会からは羨ましがられます。しかも若い世代が手伝ってくれるので」と、微笑むのは同会８代目会長の佐々木勤さんです。佐々木さん含め、同会はバレーボールの愛好者で構成されているので、大会の際には、運営もしつつ、自身もチームを組んで参加し、バレーボールを楽しむ会員が多くいるそうです。

地元企業をスポンサーに取り込んで

室根地域では旧村時代から続く自治会対抗の「家庭バレーボール大会（市体育協会主催／室根バレーボール協会主管）」があり、令和４年で56回目。参加する自治会数や参加者は年々減少しているものの、地域住民の交流の場として大切に続けられてきました。また、室根を拠点に練習を行うバレーボールチームが２団体あり、同会の協力団体にもなっています。

このように、バレーボールが身近にある室根地域ですが、先述の「いわいどりオヤマ杯」に加え、令和４年には「室根総合開発カップ」を創設するなど、競技スポーツとしてのバレーボールを楽しめる環境づくりにも力を入れています。

これらのスポンサーカップ（冠大会）を企画運営してきたのは、平成29年４月から同会事務局を務める日下徹さん。会員やバレーボール愛好家からは、定期的な目標として、大会の開催を望まれるものの、会費だけでの運営には限界があったと言います。

そこで、地元企業である株式会社オヤマに協賛を打診したところ、快諾！運営費のほか、参加賞や入賞チームへの副賞として同社の「からあげ屋」チケットの提供をもらっています。「バレーを楽しんで、からあげを食べながら帰る。その日はからあげ屋の売上も上がっていると聞いたので、地域の盛り上げにも少しは貢献できていると思います」と日下さん。

「室根総合開発カップ」も同様に室根総合開発株式会社に協賛依頼し、同社が運営する蕎麦屋「むろね庵」のチケットが提供されており、「次は市内のカフェなど、地域内の各種飲食店と連携していきたい」とバレーを通した地域貢献の可能性を探り続けています。

ないものは作る！ニーズに耳を傾けて

令和４年度に新たに始めたものにもう一つ「男女混合６人制バレーボール大会（一関市バレーボール協会主催）」があります。千厩・大東・室根の３支協会が主管と会場を持ち回りし、第１回目を室根が担当しました。

男女混合６人制バレーは、男女３人ずつのチームで行うもので、当市内にも７つのチームがあります。しかし、市内では大会がないため、他地域で開催される大会に出場するしかないのだとか。「一関市内でも開催して欲しい」という声を受け、同会が企画、令和４年７月に初開催しました。

愛好家のニーズに寄り添う同会では、約40チームが集う「いわいどりオヤマ杯」で部門毎の総当たり戦も実現。市体育協会が主催するソフトバレーボール大会がトーナメント戦であり、物足りなさを感じているという声を受けての改革でした。

「最大２試合だったのを総当たりにしたので、運営は大変な部分もありますが、参加者が喜び、会員たちも頑張ってくれるので」と佐々木さん。令和４年度は育児室も開放するなど、子育て世代の参加を促す工夫も。「人にやさしい大会」の充実を目指す同会の挑戦が、バレーボール愛好家の輪を広げています。

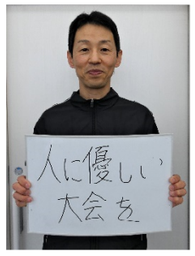
Q.活動において大切にしていることは？

会長

A. 情熱

佐々木勤（ささき つとむ）さん
学生時代にバレーを始め、Ｕターン後に先輩たちに誘われて同会へ。現在も市内のバレーチームのコーチをするなど現役の愛好家です。

事務局



A. 人に優しい大会を

日下徹（くさか とおる）さん
高校でバレーを始め、社会人になってから地元のバレーチーム（室根クラブ）へ。大東高校バレー部のコーチも長年担ってきました（令和５年から休部）。

- Photo gallery -

子育て世代にやさしく
令和４年度の「いわいどりオヤマ杯」で初開放した育児室。30人程が利用している時間があるなど、ニーズがありました。

いわいどりオヤマ杯
６部門（男子・女子・ミックス・シニア・ファミリー・ミックスチャレンジ）があり、各部門がリーグ制で行われます。

スポンサーの存在
スポンサーカップの際には、会場で協賛企業の紹介コーナーを設置したり、周知と感謝の気持ちを忘れません。

ゆるく、楽しく
バドミントンコートを使い４人でプレーするソフトバレーは、老若男女が楽しめるので、生涯スポーツとして人気です。

各種組織の「輪」で、住民の「和」を

藤沢　曲田自治会

曲田自治会（黄海）
行政区は「21区」。旧藤沢町の西南に位置し、上曲田、下曲田、山谷の３小字に分かれる（山谷地内に「岩手サファリパーク」が立地）。行政区としては49世帯100人強が暮らすが、うち14世帯はサファリパーク宿舎であり、実質の自治会員は35戸。

左の写真：「まがれっと倶楽部」が開催した「曲田マルシェの様子」（令和４年７月）

治水対策など、変化が続いた半世紀

南は宮城県登米市、北上川を挟んで花泉町日形・永井地域にも隣接する曲田集落（以下、曲田）。北上川上流狭隘地区に入っており、平成29年に堤防（輪中堤）が築造される前は、水害が頻発していました。「台風の時は、水が上がるかどうかの瀬戸際でいつもヒヤヒヤした。平成14年の台風では、舟を使って避難したよ」と振り返るのは曲田自治会副会長の佐々木晴男さんです。

築堤後は、集落内への浸水はめっきり減りましたが、その一方で10戸が曲田集落外へ移転しました（移転対象の14戸のうち４戸は曲田内に移転）。そのため、同自治会では平成29年４月に班体制を９班から７班に再編成。事業にも支障が生じます。

「10戸減ると全然違う、あの時が転換期」と語るのは、自治会長の鈴木良久さん。昭和49年に自治会が発足して以来、約40年続けてきた「曲田ふれあい運動会」を中止とするなど、自治会活動を見直さざるを得なかったと言います。

昭和48年に集落内にあった曲田小学校が閉校し、平成29年に築堤で小学校の空き校舎解体とともに戸数が大幅減、しかし平成20年には集落内に「岩手サファリパーク」がオープンするなど、変化の半世紀を過ごし、今があります。

「交通」の要であり、「交流」も生み出す存在

同集落内には北上川を横断する「花藤橋」が架かっており、毎年８月上旬（お盆前）に全世帯で「花藤橋清掃」を実施しています。橋の縁石に溜まった泥を除去したり、各家庭一人以上は参加する一大事業です。

「平成４年の花藤橋開通で曲田の行動範囲がぐっと広がりました。花泉方面に出かける時は、北上川橋がある七日町まで遠回りを余儀なくされていたので。自分たちにとっても大事な橋なので、自分たちで綺麗に維持していこうという思いで平成５年頃から始めました」と振り返る佐々木さん。維持管理の意味合いのみならず、自治会員が対面で顔を合わせる貴重な機会でもあります。

「曲田老人クラブ」と共催する「防犯教室」は毎年11月に実施。近年は藤沢地域交通安全対策協議会の会長などから、特殊詐欺対策や交通安全に関する講話等をいただき、防犯意識向上の機会としています。

こうした事業は、自治会全体で年間行事を計画し、実施。鈴木さんは、「人口規模に対して、自治会や関係団体の役の数が多いと感じる。複数の役を担う人も多く、現行の組織体制などを見直す時期にきているかもしれない」と、今後の課題を語りつつ「でも、事業の際は、特に苦労することなく皆さんが自然と集って参加してくれます。曲田の団結力には定評がありますから」と誇らしげな笑顔も見せます。

なお、隣接する中山自治会・小日形自治会と３自治会で「曲田地域自治会協議会」を組織し、花藤橋のたもとにある「曲田地区ふれあいセンター」の指定管理も受託（平成18年～）するなど、集落を越えた連携も。その他、藤沢地域全体で行われる事業にも参加・協力しています。

地域住民の「やってみたい」を後方支援

自治会と横並びで、集落内に各種組織がある曲田では、それぞれに特徴的な取り組みがあります。「まがれっと倶楽部」はその一つで、「曲田営農組合」から派生のグループ。令和４年４月に結成し、ふれあいセンターの庭で「お母さんたち」が持ち寄った野菜を並べ「曲田マルシェ」を開催しました。地域内外（県外含め）からのお客さんで賑わい、曲田を知ってもらうきっかけにもなりました。

また、「曲田営農組合」でも令和４年秋に「曲田だいこん祭り」を開催。曲田の大根には定評があったことから、基盤整備終了後の畑10ａで大根を栽培すると、「大根詰め放題」企画を開催し、地元住民の好評を得ました。

「まがれっと倶楽部は女性陣自治会の結成やマルシェの計画を行い、のびと活動しているようです。自治会とすれば、『地域のためにこれをやりたい』という活動を後方でサポートするという姿勢です。自治会関係者と各団体のメンバーが重複していることもの多いので、おのずと地域一体なんですよね。館ヶ森エリアの観光施設やイベントを目的に年間20万人程はこのエリアを訪れているので、そういう方々が立ち寄ってくれる工夫も今後は必要かと思っています」と、鈴木さん。各種資源を活かし、地域住民がイキイキと暮らすための土台を維持していきます。

Q.集落の自慢は何ですか？

自治会長

A.輪

すずき　よしひさ
鈴木良久さん
１期２年目。約10年間自治会役員を務めた後、自治会長へ。普段は藤沢地域の地域協働体「藤沢町住民自治協議会」の事務局として勤務しています。

副会長

A.和

ささき　はれお
佐々木晴男さん
２期４年目。庶務を経て副会長へ。８年間自治会役員を務める中で、「長年住んでいても知らなかったことが多いと気付けた」と振り返ります。

- Photo gallery -

岩手・一関市の玄関口
花壇植栽作業の様子。花藤橋の周辺は宮城県からの往来も多く、「岩手・一関市の玄関口」として花壇作りも念入りです。

旧曲田小学校門柱
築堤のために解体された旧曲田小学校。その門柱がふれあいセンター付近に移築され、その歴史を後世にも伝え続けます。

岩手河川国道事務所『平成14年7月　台風６号洪水　北上川上流水害写真集』より

平成14年台風の記憶
治水事業によって水害の頻度は減少しましたが、現在も平成14年台風第６号の記憶は住民の間で語り継がれています。

花藤橋の清掃
「曲田の大動脈」と表現されるほど、生活には欠かせない花藤橋。１年間で溜まった泥などを丁寧に取り除きます。

今月のテーマ

地域運営の落とし穴㉝

農村RMOと農業施策

博識杜のフクロウ博士

第49話

農村の持つ「多面的な機能」を再認識し、制度の趣旨を読み解く

突如現れた「農村RMO」ですが、「地域協働体(RMO)」と何が違うのかというと、**主語が「農村」か「地域」かの違い程度**で、**期待する仕組みや手法はほぼ同じ**と考えて良いと思っています。しかし、新たな情報が出てくると、これまでの制度を振り返り、「似たものはないか」「違いはどこにあるか」も考えなければいけません。特にも、これまで農業施策に関わってきた方にとっては、混乱しかないと思い、今ある制度を並べながら考えてみましょう。

大前提として、農業は**食**を支え、農村にある**水田は雨水を貯水して洪水や土砂崩れを防ぐ**だけでなく、**多様な生き物を育みます**。さらに農村の**美しい風景は心を和ませてくれる**など、農業・農村には**多面的な機能**があります。その多面的な機能の維持・発揮が必要とされる中で、高齢化や人口減少により、地域の共同活動で支えられてきた農村の多面的機能の維持に支障が出始めました。そこで作られたのが**「日本型直接支払制度」**です。日本型直接支払制度は、**①中山間地域等直接支払　②多面的機能支払　③環境保全型直接支払の３種類**で構成され、それぞれに特徴があります。

中山間地域等直接支払

農業生産条件の不利を補正することにより、将来に向けて**農業生産活動を維持する活動**を支援する。**継続的に農用地を維持・管理していくための取決め(協定)**を集落等で締結し、それにしたがって農業生産活動等を行う場合に、面積に応じて一定額を交付。

【対象】
傾斜がある等、農業生産条件の不利な中山間地域等

【取り組み内容】
・耕作放棄の発生防止
・水路・農道等の管理(泥上げ、草刈り等)　など

多面的機能支払

農業や農村が持つ**多面的機能の維持**や、**地域の共同活動を支援**するための制度で、以下の２種類に分けられる。

◆農地維持支払い交付金
・地域資源の基礎的な保全活動およびそのための推進活動。水路や農道等の管理(農道の路面維持、施設の点検等)等。

◆資源向上支払い交付金
・地域資源(農地、水路、農道等)の質的向上を図る共同活動。水路、農道、ため池の軽微な保修、植栽による景観形成、ビオトープづくり、施設の長寿命化のための活動等

※H19に始まった「農地・水・環境保全向上対策」を組替えたもの。

環境保全型直接支払

農業が本来有する**自然循環機能を維持・増進**し、**地球温暖化防止**や**生物多様性保全**に積極的かつ効果の高い**営農活動**(減農薬など)に対して支援を行うために交付する。

【対象】
農業者の組織する団体、一定の条件を満たす農業者等

【取り組み内容】
・地球温暖化防止に効果の高い営農活動(緑肥の作付け、堆肥の施用など)
・生物多様性保全に効果の高い営農活動(有機農業等)

※農林水産省ホームページ掲載の各種資料より(参照)

日本型直接支払制度に取り組んでいくためには、それぞれ活動組織を設立することが定められており、**中山間地域直接支払と環境保全型直接支払は、農業者のみで構成される活動組織**である一方、**多面的機能支払は、「農業者のみで構成される活動組織」または「農業者及びその他の者(地域住民、団体)で構成される活動組織」のほか、「旧市区町村区域等の広域エリアにおいて複数の集落または活動組織及びその他関係者の合意により、農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理等を実施する体制を整備することを目的として設立される広域活動組織」**があります。

この広域活動組織は、**農村RMOがイメージする‘旧小学校区程度のエリア’と同様**と考えることができ、**広域活動組織で多面的に取り組んでいる場合には、すでに農村RMOの原型となるものができている**ようなものです。
……となると、広域活動組織と農村RMOの違いは何なのでしょうか？

極端な話、これと言った大きな違いはなく、**「多面的機能支払の取り組みに‘生活支援’を追加したもの」**と考えて良いでしょう。農地と多面的機能の維持だけでなく、高齢化により高齢者への生活支援が急務となっていることから、**農業者も非農業者も「生活の場である地域コミュニティの維持を頑張りましょう」という、‘人口減少時代への備え’としての施策**なので、新しいことではなく、これまであった施策のアレンジと考えます。

次号では「農村RMO」と「地域協働体」の関係性を解説していきます。

企業紹介

一関

株式会社 一関環境保全センター

家庭から排出される生活系ごみの一般廃棄物収集運搬(一関市許可)と、企業から廃棄される事業系ごみの産業廃棄物収集運搬(岩手県・宮城県許可)のほか、市内公共施設・民間企業施設の浄化槽保守点検・管理・工事などの業務を展開。
前身は平成５年設立の酒・たばこ・食品小売業「有限会社きくかわ(平成24年に商号変更)」。粗大ごみの回収や分別、空き家・物置などの解体・不用品の撤去、その他困りごとに対応できるよう、地域のニーズに合わせた柔軟な対応をしています。

「護美(ごみ)(自分を護る・地域を護る・施設を護る・自然を護る)」を目指して

身近な「困った」を考える集団に

「廃棄物は分別を行うことで、ごみを減らし、リサイクル、リユースが可能となり、再び資源として循環されます」と語るのは、株式会社一関環境保全センター創業者(現会長)の菊川金美さんです。

一般廃棄物収集運搬業務委託、産業廃棄物収集運搬業務委託、浄化槽の保守点検・設置工事、粗大ごみの回収業務、解体工事業、資源リサイクル・リユースなど、幅広く環境保全事業を展開する同社ですが、その前身はコンビニエンスストアでした。

市内企業に務めていた菊川さんですが、平成５年、大手コンビニエンスストアが少なかった国道２８４号線沿いに「有限会社きくかわ」を設立。手作りおにぎりやお弁当などが人気の「コンビニエンスストアきくかわ」を開店しました。

一方で、通勤中に歩道のごみなどを目撃するたび「いずれは環境保全に関わる仕事で地域の環境を守りたい」と思うようになり、平成15年、早期退職し、小売業も続けながら、一関市の一般廃棄物処理業の許可業者に応募したのです。

現在では解体工事業も行っていますが、その背景にあるのは廃棄物や粗大ごみ回収中に地域の方々から受ける「空き家(小屋)の処理に困っている」という相談。

「『困った』を相談でき、一緒に解決できる企業でありたい」という思いから、お客様より要望があれば、軽微なリフォームや外構工事、庭木の撤去にも対応するなど、困りごとに親身に向き合っています。

教え・学び・知るきっかけを

PTAや子ども会の資源回収(有価物集団回収事業)の引き取りを積極的に受け入れている同社。「子どもたちの気づきのきっかけになれば」と、持ち込んだごみは自分たちで分別できるシステムになっており、「子どもたちも喜んでやっている」のだとか。

「ポイ捨てや不法投棄は自然環境の悪化につながる」ということや、「資源を循環できれば、新しい材料・商品として生まれ変わる」ということを、子どもたちは体験を通して学ぶことができます。

また、ごみの処理方法は市町村や地域によっても異なり、さらに処理技術も進歩し続けているため、社員に向けた勉強会も定期的に開催。違反ごみに貼る黄色い注意喚起シールに具体的な違反理由を補足表記したり、相談者には「こういう風にすれば処分できますよ」という丁寧な対応ができるよう努めています。

平成29年頃からは、同社周辺の国道２８４号線沿いに捨てられた不法投棄物を、従業員総出で清掃。二代目代表取締役社長の菊池利行さんは、「令和になっても、大型家電の不法投棄があり、残念です」と、意識啓発の必要性を実感し続けています。

「廃棄物回収だけに留まらず、学びの機会の提供や、住民の『困った』を気軽に相談できる場であり続けたい」と、地域の「護美」のために、同社の役割は尽きません。

1　圧縮梱包された古紙を前に説明する現代表取締役社長の菊池さん。
2　どこに何を分別するか、すっきりと区分けされた敷地内。
3　資源回収の受け入れはいつでも可。

DATA
【本社】〒029-0132
一関市滝沢字苦木100-8
TEL 0191-26-5314
【事業所】〒029-0132
一関市滝沢字九鬼138-1

地域の‘気になること’をセンタースタッフが独自に調査！

ミッション75

くらし調査ファイル№21 「年(歳)神様の迎え方②」

「松飾り」や「しめ縄」など、「御年(歳)神様(以下、年神様)」をお迎えするための風習は、当地域でも多くの家庭・地域で行われていますが、**「年神様をお迎えするための習わし」という意識ではなく「お正月飾り」として行っている家の方が多くなってきている**のが実情。前号では当地域における実態や地域性の有無などをご紹介しましたが、今回は「しめ飾り」を深掘りしつつ「松の内」と呼ばれる期間について整理してみました。

※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。

■地域差が見られる「松の内」

「年神様信仰」として、家の入口や門に松を立てたり、しめ縄やしめ飾りを戸口に張る(あげる)風習が当地域でも見られます(前号参照)。

年神様の依り代としての松を立てている期間は「松の内」と呼ばれますが、この期間には地域差が見られます。

まず、家の入口に立てる木(松・杉・栗・竹など)を調達する必要がありますが、地域によっては**必要な木を伐りに行くことを「門松むかえ」**などと称します。この「門松むかえ」の日を文献で見比べると『山目史』が12月25日、『一関市史』の舞川地区、『真滝村史』が12月28日、『一関市史』の厳美地区、『室根村史』『門崎村史』が12月30日、『一関市史』の萩荘地区、『磐清水村史』が12月31日……と、ばらつきがあります。

一般的に、**29日は「二重苦」を連想させるため縁起が良くない**とされ、**31日は大晦日に急ごしらえで準備をすることが神様に失礼である(「一夜飾り」)**と言われます。そのため、**28日や30日に「門松むかえ」**をする家が多いようです。

また、しめ縄作りも同時に行われますが、舞川地区の場合、28日に「門松むかえ」はするものの、しめ縄を作り、門松を立てるのは30日と記載されています。

なお、前述の日にちはあくまでも町史等の記載であり、28日が仕事納めという人が多い現代においては、29日を避け、30日に準備をする家が多いのではないかと推測します。

■年神様がお帰りになる日

では、「松の内」の最終日はいつかと言うと、年神様がお帰りになる日、すなわち依り代である門松を撤去する日です。

当地域では**「どんと祭(焼き)」**などと呼ばれることが多い**「左義長(さぎちょう)」**は、**門松やしめ飾りなどの正月飾りを神社の境内や道祖神の近くで焚き上げる「火祭り」**ですが、この時の**煙に乗って年神様はお帰りになる**と言われています。

当地域における「どんと祭」は、概ね**1月15日前後**に行われており、当センターの行ったヒアリング調査では、**「どんと祭」の当日または前日に撤去すると答えた人が多かった**ですが(40人中32人)、7日や11日(鏡開き)に撤去するという人も実感としては多いように見受けられます。

なお、15日の門松撤去の際には「門松を倒し、栗の木を立て、カツの木で花を作って栗の木につける(『萩荘史』)」、「早朝門松を取り除き、松葉をとりて祈祷をなし、若水を迎え松納め粥を炊き神様に供える(『室根村史』)」など、**撤去と連動した風習**がある地域も(あくまでも文献上)。

ヒアリングにおいては、「どんと祭」ではなく、**「氏神様に納め、自然に返す」**という回答もありました。

当地域の「どんと祭」

今回の調査でヒアリングを行った人の多くは、**「松の内」期間に使用したしめ飾りなどは「どんと祭に持って行く」**と回答(38人中26人)。**「居住地に近い神社(≒氏神神社、産土神社)が行う『どんと祭』に持って行く」**パターンと、**「所属する自治会等が行う『どんと祭』に参加する」**というパターンが多いようです。

「氏神様に納め、自然に返す」という回答もありましたが、花泉町老松の「御嶽山御嶽神明社」の佐藤宮司によると、しめ飾りなど、**昔の正月飾りは「土にかえるもの」だったので、各家の氏神様に納めて(焼くわけではない)終わっていた家も少なくはない**とのこと。

また、一般的に年神様は「煙に乗って帰る」と言われますが、**当地域においては、年神様が「田の神様」という考えもあり、「松の内」が終わると、田んぼの水口にお祀りし直すという家もある(あった)**ようです。

「年神様を煙に乗せて帰す」という考え方の広がりで「どんと祭」が集落レベルでも行われるようになったのか、「土にかえらない素材」も使用されるようになったために「どんと祭」が必要とされたのか、当地域における「どんと祭」の普及経緯は定かではありません。

「しめ飾り」を深掘りしてみた

前号で、当地域における「しめ飾り」は、**西磐井地域では「牛蒡じめ」、東磐井地域では「サゲ付きのしめ縄」が多い傾向がある**という調査結果をご紹介しました。市販品を購入する家庭も増えていますが、「しめ飾り」を手作りするための講座を毎年開催している地域も。その１つ、一関市曽慶市民センターで開催された「しめ縄づくり教室」に参加し、「サゲ付きのしめ縄」の作り方を教えていただきました。

「サゲ付きのしめ縄」とは、**しめ縄に「サゲ(フサ)」や「紙垂(シデ)」、松の葉を挟み込んだしめ飾り**です。

「紙垂(シデ)」とは、榊の枝や串、**しめ縄に垂らす紙片(かみかた)**を指し、串(棒)に紙垂を挟んだものが「御幣」です。様々な形がありますが一般的な吉田流という切り方が４つの長方形が垂れたような形であることから、「四手」「四垂」と書いてシデと読むことも。

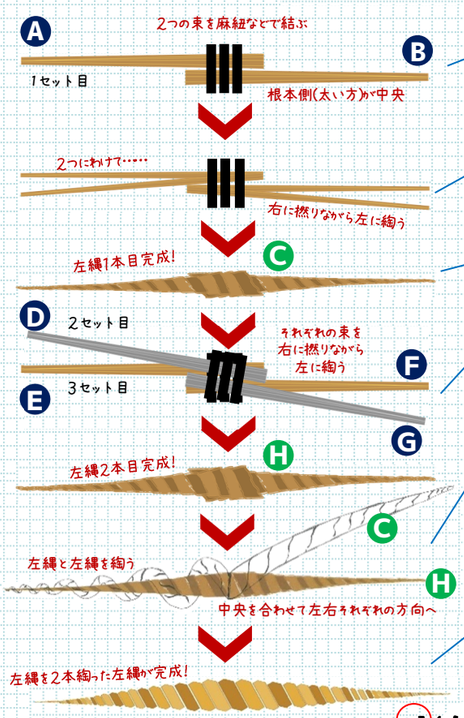
東磐井地域では、現在も手作りの「サゲ付きのしめ縄」を飾っているという家が少なくありません(手作りされたものをいただいているという家含め)が、見た目は同じように見えても、その作り方は様々。**地域性というよりも、各家(＝人)流という傾向が強い**印象です。

曽慶市民センターで開催された「しめ縄づくり教室」では、興田地区在住の小山文吾さんを講師に「縄ない」の工程から開始。藁が手に入りにくくなった現代においては、購入した藁を使用することも。うるち米の藁よりももち米の藁の方が長いため、昔は**もち米の藁を使用することが多かった**とか。

「サゲ付きのしめ縄」は**「七五三縄」**とも呼ばれ、縄から垂らす**「サゲ」の場所を「七筋・五筋・三筋」**にしていましたが、この仕様だと現代の玄関には飾ることができない(大きすぎる)ことが多いため、それぞれの玄関に合わせて適宜アレンジしているようです。

小山文吾さん流 サゲ付きのしめ縄の作り方

※しめ縄の作り方は各家庭の流儀があり、正解があるわけではありません！
各家・地域で受け継がれてきた流儀を大切にしてください。



27～30本の藁を束ね、霧吹きなどで湿らせ、たたいて柔らかくする。それらの束を**合計６束**用意し、**２束ずつ、麻紐等で結ぶ**。この時、**根本側の太い方を中央**に向け、根本側同士を結ぶ。
※２束ずつ結んだものが３セットできている状態

１セット目のそれぞれの束(図のＡ・Ｂ)を同じ太さで２つに分け、分けたそれぞれの束を**右に撚り(より)ながら左に綯って(なって)いく**。わら細工や草履などの日用品に使用する縄は、右に綯っていく「右縄」だが、しめ縄は逆に綯った**「左縄」**。　※実際の縄目→

「左縄」の１本目ができた状態(Ｃ)。中央(根元部分)から端(穂先部分)に向かって細くなっている。

２セット目、３セット目の中央部分を重ね、麻紐等で結ぶ。今度はそれぞれの束(ＤとＥ、ＦとＧ)を１セット目と同じ要領で右に撚りながら左に綯っていく。※Ｃよりも太い左縄ができる(Ｈ)。

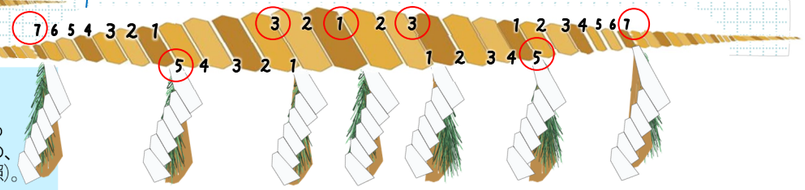
左縄が２本完成(ＣとＨ)したら、この**２本を合わせて綯っていく**。
Ｈの中央部分にＣの中央部分を合わせ、Ｃを巻き付けていくイメージ。

この時も左に綯っていくが、Ｈの筋の３の倍数筋にＣが収まるように巻き付ける幅を調整する。

長さが足りなくなったら、**藁を継ぎ足して綯う**ことも。きつく巻いていかないと、サゲや紙垂が落ちてしまう。
はみ出た藁を見栄え良くカットしたら完成。サゲなどを挿す。

サゲ・紙垂・松をつける場所

小山さん流では、サゲ(フサ)・紙垂・松をひとまとめにし、縄の筋と筋の間にねじるように差し込む。差し込む場所は、中心を決め、そこから**「1、3、5、7」**とします(右図参照)。**串で固定**すれば完成！



＜参考文献＞　誌面では割愛させていただき、当センターホームページに掲載します